

★教育委員会の事務点検・評価制度の概要★

- 1 対象年度 平成29年度
- 2 法令上の根拠 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条
- 3 評価方法 教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。

※評価委員 学校教育分野：松尾 七重（まつお ななえ）氏
 千葉大学教育学部教授（教育学部副学部長） 専門：算数・数学教育学
 生涯学習分野：岩崎 久美子（いわさき くみこ）氏
 放送大学教授（前国立教育政策研究所総括研究官） 専門：生涯学習政策

4 重点的に評価する事業等【平成29年度の新規・拡充事業】※（ ）は評価委員が視察・現地ヒアリング

- (1) 市独自の学級編制や教職員の配置（千葉市立小中台小学校）
- (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進（千葉市立都小学校）
- (3) 加曽利貝塚博物館の積極的な活用（加曽利貝塚博物館）
- (4) 千葉市科学館の管理運営（千葉市科学館）

★教育委員会による自己評価★

学校教育分野については、平成28年3月に策定した「第2次千葉市学校教育推進計画（H28年度～H33年度）」に基づき、生涯学習分野については、同じく平成28年3月に策定した「第5次千葉市生涯学習推進計画（H28年度～H33年度）」に基づき各施策を実施し、毎年度進捗状況を評価している。平成29年度は本計画の2年目であることから、前年度からの事業の継続状況を踏まえた評価を行った。また、本計画は中間年度での見直しをすることとしており、平成30年度に見直しを行うことから、計画の見直しを見据えた評価も行った。なお、「事務点検・評価」では、学校教育分野及び生涯学習分野全体の評価に加え、平成29年度の新規・拡充事業のうち4つの事業について重点的な評価を行った。評価の詳細は「事務点検・評価報告書」（含進捗状況点検）に記載している（ホームページに後日掲載）。

1 全体の評価について

(1) 成果指標 ※別紙1-1（学校教育分野）、別紙2-1（生涯学習分野）を参照

学校教育分野では53項目のうち10項目で、生涯学習分野については10項目のうち4項目で平成29年度末現状値が平成30年度末目標値（中間目標）以上となっている（達成状況「◎」）。一方で、学校教育分野では27項目が、生涯学習分野では3項目が計画策定時の平成27年度末現状値を下回っている（達成状況「×」）現状である。いずれの分野においても、平成27年度末現状値を下回っているものについては、関連するアクションプランを推進し、中間目標値を達成できるよう努めていく。

なお、成果指標の数値データの出典などの関係で、現状値が未定なため達成状況が確認できないもの（達成状況「-」）が、学校教育分野で6項目、生涯学習分野で2項目ある。こちらについては、計画の見直しのなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。

(2) アクションプラン（個別具体事業） ※別紙1-2（学校教育分野）、別紙2-2（生涯学習分野）を参照

学校教育分野においては、全体の93%にあたる74の個別具体事業が概ね計画通り順調に進捗している一方で、6つの事業においては計画に対して進捗状況の遅れが生じている。生涯学習分野においては、全体の82%にあたる46の個別具体事業が概ね計画通り順調に進捗している一方で、7つの事業においては計画に対して進捗状況の遅れが生じ、3つの事業については平成29年度末時点で事業を休止している。いずれの分野においても、順調に進捗している事業については、中間目標及び最終目標を達成できるよう引き続き各事業の推進に努め、遅れが生じている事業や休止している事業については、計画の見直しのなかで今後の事業の進め方等について検討していく。

2 重点的に評価する事業等について

(1) 市独自の学級編制や教職員の配置（報告書 P44・45）

県費負担教職員の給与負担などの委譲に伴い、各学校の実情に応じて、少人数学級の拡大や少人数指導の活用、柔軟な教職員の配置などを実施したことにより、児童生徒一人ひとりに目が配りやすくなり、よりきめ細かな対応が可能となった。

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進（報告書 P12・13、P17・18、P26・27、P30・31）

パラスポーツの体験に加え、道徳等の各教科との連携を取り入れた授業の実施や、食育と関連づけた学校給食でのオリンピック・パラリンピック応援メニューの実施により、大会への関心を高めるだけでなく、多様性の理解や国際理解教育の推進にもつなげることができた。

(3) 加曽利貝塚博物館の積極的な活用（報告書 P73・74）

加曽利貝塚は平成29年10月13日付けで国の特別史跡に指定された。縄文時代の理解を深める講座、展示解説及び集客イベントなどを積極的に実施したことにより、平成29年度の博物館入館者数は7万人を超え、加曽利貝塚の価値と魅力を多くの人に伝えることができた。

(4) 千葉市科学館の管理運営（報告書 P75・76、P77・80）

千葉市科学館では開館当初の平成19年度より指定管理者制度を導入している。指定管理者のノウハウを活用することにより、様々なニーズへの対応や魅力的な事業が実施できている。また、千葉市科学フェスタの開催や積極的な広報を続けてきたことで、「科学都市ちば」の認知度、科学館の来館者数は増加している。

★有識者からの意見のポイント★

松尾委員の意見（報告書 P92～94）

全体について（総括的所見）

- ・第2次千葉市学校教育推進計画の2年目にあたる平成29年度の各事業の取り組み状況は、事業の特性に応じて円滑に実施されており、概ね良好な成果を得ていると評価することができる。
- ・各アクションプランの進捗状況に対する自己評価では、今後の取り組みについてより具体的に検討し、次年度へと効率よくつなげられるようにすることが重要であろう。
- ・成果指標とアクションプランの対応づけをすることで、改善点への今後の対策が確実に結び付けられ、わかりやすくなると思われる。
- ・各施策において、平成29年度の結果で望ましくない傾向が見られる指標や事業については原因の究明を行うとともに、短期間での推移では必ずしもその傾向を読み取ることは適切とは言えないため、状況を正確に把握しつつ、改善のための最善の方策を取れる体制を整える必要がある。
- ・時代の流れの中で、急激に変わること、変わらないことを見出し、それに適切に対応すべく、事業全体を見通して改革すべき点を洗い出し、それを推進していくことが重要である。

市独自の学級編制や教職員の配置について

- ・少人数学級や少人数指導等において、学校の裁量に任されることで弾力的な運用が可能となり、各学校の特性に合わせた活用ができるようになったことが高く評価できる。
- ・スクールカウンセラーの配置について、気軽に学校で専門家に相談できる取組みとして高く評価できる。担任との連携が取れることで子どもの状況への適切な対応が可能となることから、スクールカウンセラーの増員を行うことは重要な課題である。

オリンピック・パラリンピック教育の推進について

- ・各教科との連携を考えて、小学校及び中学校の授業が工夫されている。（人との接し方、礼儀・挨拶などの道徳的内容の学習、食育に関わる世界の食に注目した総合的な学習など）
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催機運を盛り上げるだけに止まらず、健康教育を始め、多様性理解や国際理解教育等を推進し、教科横断的に関連教育を進めている点が評価できる。
- ・本事業に関する教育の成果を明らかにすることも同時に必要であることから、事業実施のみならず、成果の示し方の検討を行うことも重要であろう。

岩崎委員の意見（報告書 P95～96）

全体について（総括的所見）

- ・青少年における生涯学習の推進について、子ども議会からの提案を子どもたちのワークショップで検討し実現していくなど、子どもの声を市政やまちづくりに反映できる仕組みがあり評価できる。
- ・成人における生涯学習の推進について、生涯学習センターにおける千葉公共職業安定所（ハローワーク千葉）との連携による就活支援講座など、就労を望む市民にとって適切な講座が展開されている。
- ・高齢者における生涯学習の推進については、生涯現役応援センターとの連携や、公民館や生涯学習センターの講座と、社会福祉協議会やいきいきプラザ等での講座との有機的な繋がりが求められる。
- ・手続きや様々な支援を同一の場所で可能とするワン・ストップ・サービスに、生涯学習活動に関わるサービスを組み入れることは有効であり、花見川区役所内に、みずほハスの花図書館を隣接させていることは、区役所に手続きに来た際に学習活動にも近づく機会を提供する先駆的な施策である。
- ・約8割の市民が生涯学習に関心を持っているという事実に対しては、そのニーズに応じた事業の企画・提供に専心することが肝要と思われる。学んだ成果を地域に還元できる具体的なメニューの提示も大事である。関心を持たない約2割の層に対しては、関心を持たない理由を明らかにし、その状況や必要に応じて学習活動への支援が行き届くような配慮が必要となる。

加曽利貝塚博物館の積極的な活用について

- ・職員の意欲や熱意により、定期イベントのコンテンツの充実や発掘体験・土偶ペーパークラフトなどの新規事業の拡充により、入館者及び講座等の参加人数が大幅に増加している。今後は、駐車場の確保、職員の勤務体制や施設ボランティアの充実なども考慮されたい。
- ・観光資源としてのみならず、加曽利貝塚の学術的価値や教育資源としての可能性について、国内外に積極的にアピールされたい。

千葉市科学館の管理運営について

- ・科学的な関心を喚起するために、館内の講座や企画展の他、ワークショップなどのアウトリーチ活動を行っていることが高く評価できる。
- ・指定管理者が入館者数の増加のみに終始せず、市民が喜ぶ企画展などのため、研修・研究の時間を取っていることは、科学という最先端の内容を市民に提供する最前線にいる者の使命を果たしていると言える。
- ・利用者満足度の向上や付加価値の高いコンテンツの実施により、「科学都市ちば」に在住する市民の科学に対する関心を喚起・充足しうよう、さらに努力を重ねられたい。